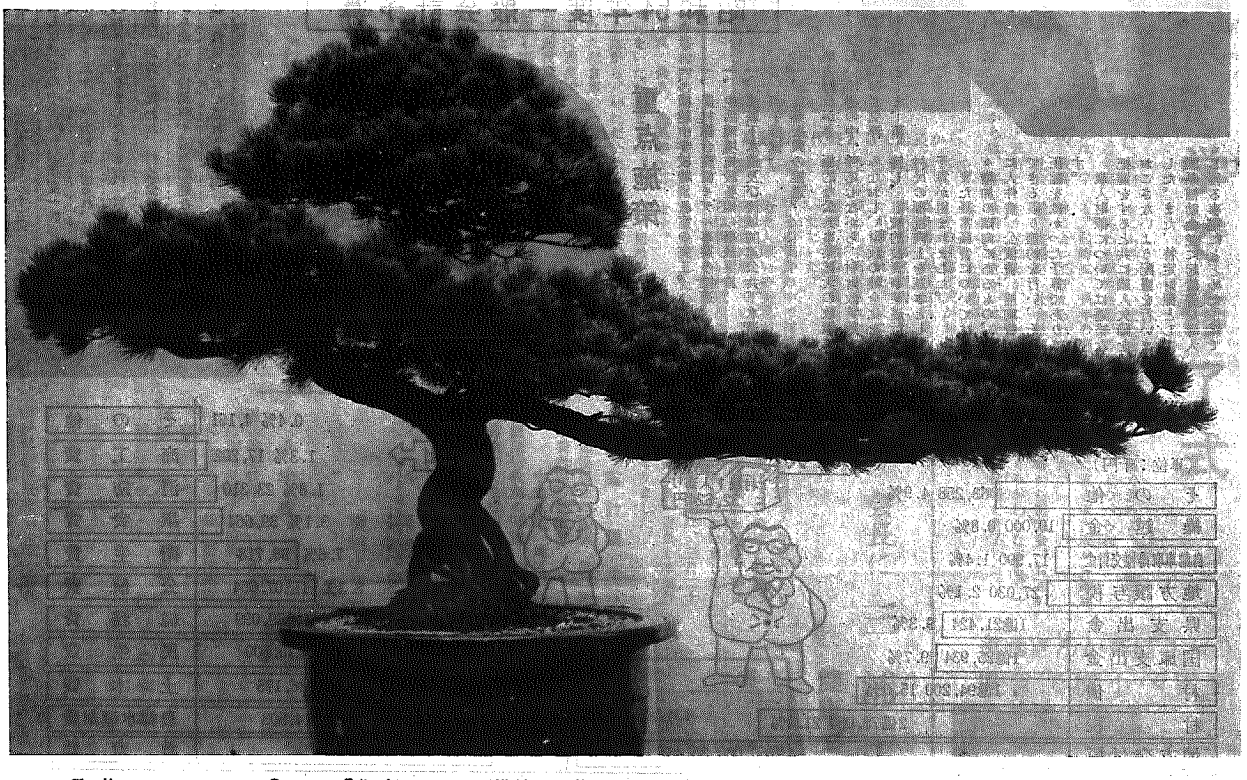
'79 4
No. 83
昭和54年4月5日発行
発行 横越村役場

広報よこごし

おもな内容

1. 第31回婦人週間（1P）
2. 昭和54年度一般会計予算（2P）
3. 水道料金改定（2P）
4. 高齢者大学で修了式（3P）
5. 民具資料収集にご協力を（3P）
6. 村指定文化財頂像画に決定（4P）
7. 公民館役職員決る（4P）



盆栽シリーズ ⑧ 五葉松 （横越上 熊倉信雄氏所有）

「活動分野を広げる」

第31回 婦人週間 4月10日～16日

四月十日から一週間、婦人週間です。

婦人週間は婦人の地位向上のための特別活動として、昭和二十四年に設けられたもので今年で三十一回目を迎えました。

今年のテーマは「男女の平等と婦人の社会参加をすすめる」で、運動の重点は、婦人自身の自覚を高め、社会一般の理解を深めることを目的として「婦人の活動分野を広げる」ことにおかれます。

婦人問題に関する有識者調査から

男は仕事、女は家庭 三人に二人が反対

総理府の婦人問題担当室が昨年秋まとめた、第二回婦人問題に関する有識者調査（昭和五十二年十月調査）の結果によりますと、「男は仕事、女は家庭」という考え方に同感しない人は六四％（女八三％、男四五％）となっています。

同感しない理由としては、「固定化された考えでなく、本人の考え方次第であるべきだから」という人が八三％。「男は自分の身のまわりのこともできなくなり、女性は自分の家庭中心に視野が狭くなってしまう」という人が五・二％となっています。女性も家庭だけにとどまらず広い視野をもち、社会と結びついた活動をすべきだという意見が多いのです。

男女平等について

また、男女不平等の現実に対する不満の声も強いといえましょう。職場では女性は男性と「平等でない」と思っている人は七八％（女八四％、男七二％）。女性が職場で十分に能力を発揮し、男性と同等の処遇を受けるために必要なこととして、「女性自身がもっと責任感を持ち、職業人としての努力をすること」と答えた人が四六％（女三五・七％、男五六％）で女性を取り巻く社会的な条件を整備すること」という意見二四・四％（女二九・一％、男一九・八％）を上回っています

横丁橋

桜前線が北上し始め、各家庭の庭の桜も咲く四月、昭和五十三年度も終り、五十四年度の幕があく、神田名村長も村に若い新風をと引退を表明し、そして、昭和生まれの村長が誕生する。村民八千四百余名に惜しまれて勇退なさる神田村長に対して心から「ゴクロウサマデシタ」と御礼を申し上げたい――。

春休みで天候を気にしながら遊んでいる子供達の輪に入って雑談した。「私が男だったら」「女であったら」と話しあっている中に「生まれたくて生まれてきたわけではない。」と云う子供の言葉にハットした。なるほど、子供の云う通り「生んで下さい。」とお願いして、生まれて来た人は世界中に一人としていない。「生まさせられた」のである。生を与えたのは大自然に隠された大いなる生命の力であり、そして生まれて来た以上は何かを創造し、この世に残して行く使命が自ら与えられているのである。それはどんなに小さい事でも自分が真剣にとりくむ価値があることならそれで良い。一歩一歩その仕事の達成に向って努力し前進する所に人生の意味があると思う。しかし、目的に向って一直線に進んでいけるものではない。人間だれでも努力している間はいろ〳〵と迷う、迷いながらジグザグの前進である。一生懸命に生きる姿こそ、人間の尊さであり美しさである。

人生にリハーサルがあったらどんなに良いだろう、と云った人がいた。勿論自分の人生の中での失敗に対しての悔恨から出た言葉である。結婚や、職業の選択にリハーサルがあったら、人生に魅力があるかどうか？思うようにいかないところに人生の魅力があるのではないだろうか？。

今年度も公民館職員と共に社会教育の為に全力を尽くす覚悟でいる。どうか村民皆様の御指導御鞭撻の程御願い申し上げたい。

（山崎）